

Volunteer NPO Center News Letter

ボランティア・NPO活動センター通信

No.42 発行日：2023年4月

教職員の皆さんにボランティア・NPO活動センターの活動を知っていただきたい！ ボランティア活動に参加していただきたいという思いを込めて、「ボランティア・NPO 活動センター通信」をお届けします。2022 年度の主な事業報告、2023 年度から新たにご就任いただいたセンター長の挨拶の他、教職員の皆様へのご案内を掲載しています。

なお今回は、一部に ChatGPT(人工知能チャットボット)を活用しています。どこにを使っているかぜひ考えてみてくださいね(正解は編集後記に掲載)。

「災間」の時代におけるボランティアの役割

本年度から本学ボランティア・NPO 活動センター長を務めます政策学部教員の石原凌河と申します。本学ボランティア・NPO 活動センターは 20 年以上前から設立された他大学と比べても伝統のある大学ボランティアセンターです。これまでの実績を活かしながら、龍谷大学だからこそできる真に必要な支援やボランティアのあり方について、学生やスタッフの方々と共に実践しながら考えていきたいと思ひます



さて、私たちがいま生きている社会では、頻発する自然災害、新型コロナウイルス感染症、ロシアによるウクライナ侵攻など実に様々な危機に見舞われ、困難に直面しています。民俗学者の赤坂憲雄氏は、災害・危機が頻発し、多くの犠牲が生じるという不条理な社会の様相を、さまざまな災いと災いの間、つまり「災間」の時代であると指摘しています。危機が多発する「災間」の時代において、被災者に向けて支援の手を差し伸べるボランティアが益々求められているのではないのでしょうか。貧困、過疎化、地域コミュニティの希薄化など様々な社会的課題が山積する中で、平時においても様々な領域においてボランティアが果たす役割が一層高まっていると思ひます。

グローバル化の進展、情報通信技術の発達、新自由主義経済の台頭などにより、私たちの社会は確かに便利になりました。しかし、効率性や合理性を重視した便利な社会と引き換えに、前述したような様々な危機や社会的課題が生じるようになり、その結果として、社会から取り残された人々も多く出てしまうようになりました。こうした人々の声に真摯に耳を傾け、その声を社会へ発信していく。そして、オルタナティブな社会を創造していく。このこともボランティアだからこそできる役割だと思うのです。

少々小難しい話をしましたが、結局は社会を変える源泉は私たちの想いであり、その想いが行動化されたものがボランティアではないのでしょうか。なので、「ボランティアをやってみたい！」や「地域や社会をより良くしたい！」という想いを少しでも持った方々は、ぜひ当センターへ気軽にお越しください。社会をより良くする第一歩を共に踏み出しましょう。

ボランティア一人ひとりの想いの集積が「災間」の時代をしなやかに生き抜く原動力となるはずです。

ボランティア・NPO 活動センター長

石原 凌河

2022 年度の主な事業報告 (2022 年 4 月～2023 年 3 月)

ボランティア・NPO 活動センターでは、コロナ禍でしたが活動を止めず、出来る限りの感染防止対策を講じながら、様々な工夫をして、龍谷大学の学生・教職員の皆さんに向けて、ボランティアの一步を踏み出すための様々なプログラムや、学生スタッフによるボランティア企画などを提供してきました。2023 年 3 月までに、実施したいくつかの活動を紹介します。今年度も、同様の取り組みを継続していきますので、関心のある学生には、ぜひセンターの利用をお声がけください。

学生と子どもたちがキャンパス内で思いっきり遊ぶ「龍谷キッズふれあいパーク」を実施

ふかくさ輝っず児童館の子どもたち(74 名)を深草キャンパスに招いて一緒に遊ぶボランティア企画を実施しました。コロナ禍で活動が制限されていた子どもたちを大学に招待して春休みの楽しい思い出を作ってもらいたい！広いキャンパスで思いっきり遊んでもらいたい！という学生スタッフの想いから始まった企画で、一般の学生含む 49 名がボランティアに参加しました。

キャンパス内でスタンプラリーや工作遊びをしたり、体育館(専精館)でじゃんけん列車やドッジボールをしたりと、広いキャンパスに学生・子どもたちの楽しい声が響きました。ボランティア参加学生からは「たくさん話した子からまた来てねと言ってもらった時は涙が出そうになった」「楽しいといってくれたのがうれしくて楽しくボランティアをすることができました」などの感想が寄せられました。



大津祭(国指定重要無形民俗文化財)の曳山巡行が 3 年ぶりに催行・学生ボランティアが活躍(10 月)

大津祭(国指定重要無形民俗文化財)の曳山巡行が 10 月 9 日(日)に 3 年ぶりに実施され、41 名の学生がボランティア参加しました。午後から雨天となり、悪条件ではありましたが、多くのボランティアや地域の方々と一緒に、3 年ぶりの曳山巡行を盛り上げました。大津祭を未来へ継承していきたいというみなさんの熱い思いに共感し、学生スタッフが勉強会等を含むボランティアプログラムとして企画しました。学生ボランティア募集にあたり、瀬田学舎にて大津祭曳山連盟のみなさんによるお囃子演奏の実演と、お囃子体験をしていただきました。参加した学生からは、「人と人とが互いに思いやりや気づかい、協力などをして一つのことを成し遂げることの素晴らしさを感じた。また、その一人になれて光栄に思う。」といった感想が寄せられました。



国内でも体験的な学びを意識した「海外体験学習プログラム」を実施しました

2022 年度も海外渡航を伴った形での実施は見送りましたが、今年度は国内で国際協力に取り組んでいる NGO に訪問し、フィールドワークを伴う形で実施しました。コロナ禍の状況でも工夫して、オンライン開催に留まらない企画を実施しました。

【1】コーヒーを通して多角的に国際問題に迫る！

SDGs を体感するコーヒー農場・JICA 関西見学ツアー

①9/18(日)守山農場(滋賀県にあるコーヒー農場)訪問

②9/19(土)JICA 関西(神戸市)訪問

※②は台風の影響によりオンライン開催に変更

参加者:18 名

コーヒーが抱える諸問題について多角的に考えるプログラムを実施しました。初日に実際にコーヒーの木を見学しながら栽培や有機農法に関する課題についてお話を聞き、2 日目に JICA の専門家よりルワンダでの事例をもとにしながらコーヒーにまつわる問題について考えました。



【2】アフガニスタンの今と未来～日本にいる私たちに出来る事は？

①1/20(金)(一社)平和村ユナイテッド講演会

『報道されないアフガニスタンの今と NGO の支援』

②2/19(日)EJAAD JAPAN(豊中)訪問

『草の根の活動から支援の仕方を考える。やりがい作りと生活支援』

参加者:12 名(第一部のみ全学に公開して実施。教職員も含め、計 40 名程度の参加)

①のプログラムは現地の青少年の活動について学び、②では国内でアフガニスタンの女性支援をしている豊中の団体を訪ねました。現地カブールとネットをつないだり、在日アフガン人に現地の料理を作っていたくなどで生きた学びとなりました。



国内体験学習プログラム・福島スタディツアーを実施しました

2015 年より継続して「福島スタディツアー～福島を生きる人々の「言葉」を聴き、そして「自分」を見つめる～」を開催しています。福島県の浜通り地域を中心に訪れ、施設見学やフィールドワーク等を通じて、様々なお話を聴き、福島の抱える問題について学び、考えます。今年度は 21 年度実施で繰り延べになった分の合わせ 2 回実施しました。

福島スタディツアー「～福島を生きる人々の「言葉」を聴き、そして「自分」を見つめる～」

【21 年度分】開催日:8/6(土)～8/10(水) 参加者 8 名

●参加学生の声

現地へ行くからこそ、見られた景色、聴けたお話がたくさんありました。五感のすべてを使って福島の今を体感することができました。

毎日のふりかえりをおして、他の人が考えていることを知ることができて、新しい発見につながりました。 等

【22 年度分】開催日:2/21(火)～2/25(土) 参加者 16 名

●参加学生の声

災害はまだ終わっていないということ、そして自分がいかに無知であったかを痛感しました。最終的に残ったのはモヤモヤですが、心から行ってよかったと思えます。等

両プログラム共に、ツアー前に事前学習、ツアー中は全員でふりかえり、ツアー後には事後学習を実施し、学びを深めると共に、気づきを分かち合う時間を設けています。



ボランティアコーディネーション力 3 級検定

ボランティアコーディネーションへの理解を深め、実践的な取り組みの担い手として活動する力をつけることを目的として、日本ボランティアコーディネーター協会との共催で『ボランティアコーディネーション力 3 級検定』を毎年実施しています。2022 年度は 10 月 22 日(土)に深草キャンパスで実施し、30 名が受験しました。過年度にも教職員の方も参加いただいております。今年度も実施予定ですので、楽しみに。



自分たちの活動をパワーアップするには？(8 月) チームを運営するコツ講座(2 月)

センターでは、ボランティアグループの他にもサークルやゼミでも活かすことのできる組織運営の講座を実施しています。2022 年 8 月 5 日に「自分たちの活動をパワーアップするには？」、2023 年 2 月 2 日に「チームを運営するコツ講座」を実施し、それぞれ 46 名と 51 名の学生が参加しました。いずれの講座もメディア取材を受け、後者は当日の NHK ニュースでも取り上げられました。



教職員も社会貢献に参加しませんか？ボランティア・NPO 活動センターが支援します

ボランティア・NPO 活動センターは、学生へのボランティアの啓発活動以外にも、教員・職員の皆様へのボランティア紹介をおこなっています。また、ボランティア保険の加入手続きも可能です。

「ボランティア」に興味・関心はあるけれどもはじめの一歩を踏み出したことがない教職員の皆様も、「ボランティア」への理解を深めてはいかがでしょうか。

なお本学には、「ボランティア休暇」制度も整っています。(年間 5 日限度として、1 日または半日単位で取得することが可能です(有給。詳しくは「ボランティア休暇に関する要項」を参照してください)。

その他、ボランティアに関することは、各キャンパス深草(成就館1階)・瀬田(青志館横)に 2 名ずつ配置されている「ボランティアコーディネーター」にお気軽にお問い合わせください。

「ボランティア入門講座」を 5 月に開催決定 ボランティアをする前に知っておこう

「ボランティアに興味はあるけどどうしたらいいの」という方にお勧めなのが「ボランティア入門講座」です。「ボランティアの基本」や「考え方」を学んで、ボランティアへの一歩を踏み出してみませんか。職場を一步離れて、世代やセクターの異なる方と交流できるチャンスが広がりますよ。

※受講後「ボランティア体験」への応募が可能です

深草:5 月 16 日(火) 17:30~19:00 (場所調整中)

瀬田:5 月 17 日(水) 17:30~19:00 3 号館 101

※申込は HP からお願いします。

編集後記 : 今回は、上の「教職員も社会貢献に参加しませんか」の記事タイトル作成に ChatGPT を活用しました。教職員に向けたボランティア活動促進のキャッチコピー案を複数あげてもらって、何度かやり取りしてできたものの中の一つです。今後、こうした活用も増えてくるかもしれませんね。(中島)



Facebook



Twitter



ホームページ

ボランティア・NPO活動センター通信第 42 号 発行責任者:センター長 石原 凌河
ホームページ: <https://www.ryukoku.ac.jp/npo/> E-mail: ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp

深草:成就館 1F(内線 1490)
Tel:075-645-2047 Fax:075-645-2064

瀬田:青志館(生協食堂)横(内線 7252)
Tel:077-544-7252 Fax:077-544-7261